

日本民家園だより

特集 大岡實の建築

vol.79



特別大護摩祈願芳名

特別大護摩祈願芳名

企画展示「建築史家・大岡實の建築 ~鉄筋コンクリート造による伝統表現の試み~」

2013年7月2日(火)~11月24日(日)

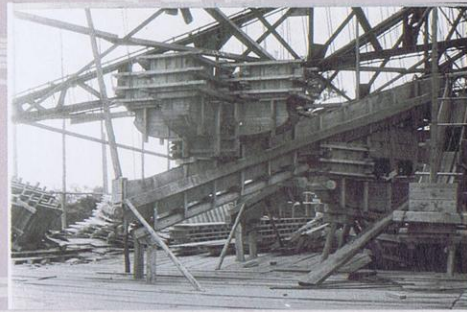
鉄筋コンクリート造による伝統表現

大岡實 (1900-1987) は、日本古代の建築を研究した建築史家として、また全国の文化財修理工事を監督・指導した文部省(現文部科学省)の技術者として、昭和の建築史学界・文化財保存界における最も重要な人物の一人です。日本民家園設立(1967年開園)の際には、その基本構想から移築民家の選定にいたるまで指導的役割を果たしました*。

しかし、一方で、大岡が「建築家」としても非常に精力的な活動を行っていたことはあまり知られていません。大岡は、後半生のおよそ40年間、自らが主宰する設計事務所(大岡實建築研究所)で、それまでに培った古建築に関する深い見識にもとづき、多くの神社や寺院を設計しました。その数は100棟以上におよび、中には川崎市民にとって馴染みの深い平間寺(川崎大師)の建築群をはじめ、浅草寺本堂や増上寺大殿など一般に広く知られる建築も少なくありません。大岡は設計した建築のほとんどで鉄筋コンクリート造を採用しました。そこには、火災による焼失を避けるため、そして現代の新しい要求に応えるために、日本の伝統的な建築造形を鉄筋コンクリートという新しい構造・材料で表現しようとする大岡の挑戦がありました。

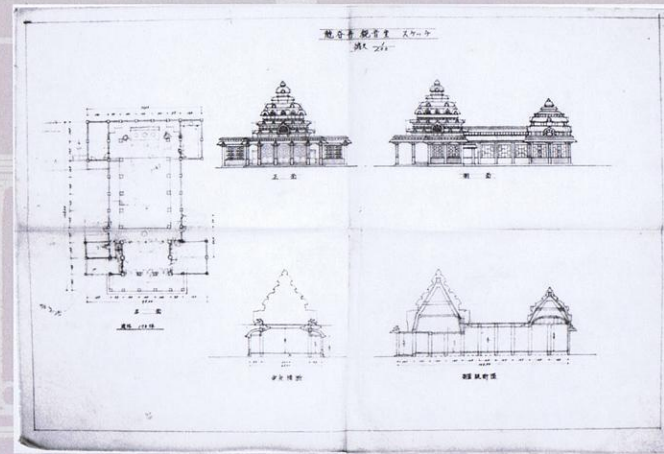
本企画展では、大岡の「建築家」としての業績に焦点をあて、日本民家園および大岡實建築研究所が所蔵する資料の中から、図面やスケッチ、写真等を一般公開し、大岡建築の魅力をご紹介します。

*その縁で、博士の没後、生前博士の行なった学術的調査の諸資料や貴重な蔵書が当園に寄贈されることになりました。平成25年7月現在、5冊の資料目録を刊行中。



浅草寺本堂 施工中写真 昭和27年10月撮影

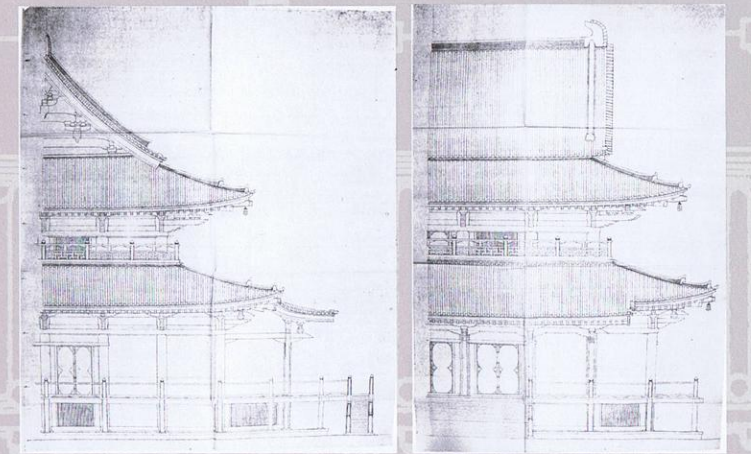
浅草寺本堂は、戦後に始まる大岡の設計活動の第一作です。浅草寺では、日本建築の伝統的な特徴が細部にわたってコンクリートで忠実に再現されています。写真は斗栱(ときょう：柱の上に置かれて軒などの上部構造を支える装置)の型枠の様子。



「龍谷寺観音堂スケッチ 正面図・側面図・平面図・断面図

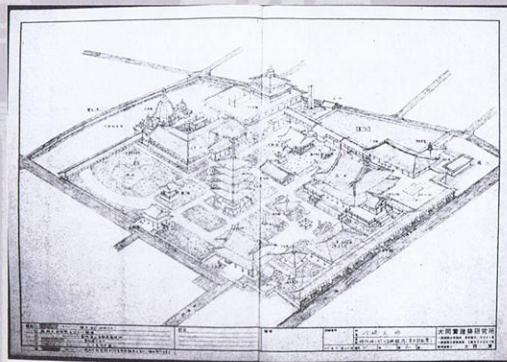
1/100」 作成年不詳

大岡はインド風の外観を持った仏堂をいくつか設計しています。新潟県南魚沼市の龍谷寺観音堂はその代表例です。この建物の外観は初期ヒンドゥー寺院をモチーフとしていますが、内部には日本風のデザインもみられます。



増上寺大殿側面図(左)と増上寺大殿正面図(右) 作成年不詳

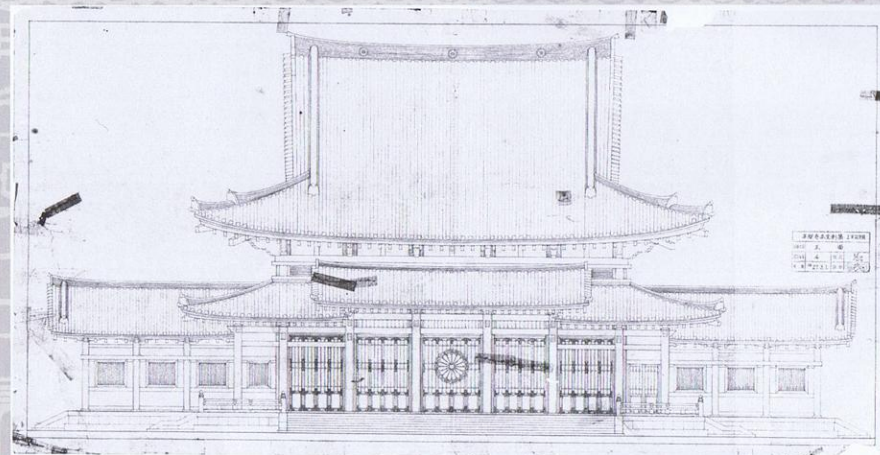
東京都港区芝公園にある増上寺の本堂は、大岡の代表作の1つです。当初、寺側は単層を希望していましたが、大岡は、敷地周辺にある東京タワーやプリンスホテル等との高さのバランスを考慮して重層(2階建)の建物を設計しました。



「川崎大師 竣工時に於ける俯瞰図(基本計画案)」

昭和52年7月30日

川崎大師平間寺は大岡の代表作の1つです。本堂をはじめ、山門、八角五重塔、薬師殿、信徒会館など、境内の建物のほとんどを大岡が設計しています。



「平間寺本堂新築工事設計図 正面 1/50」 昭和27年3月1日

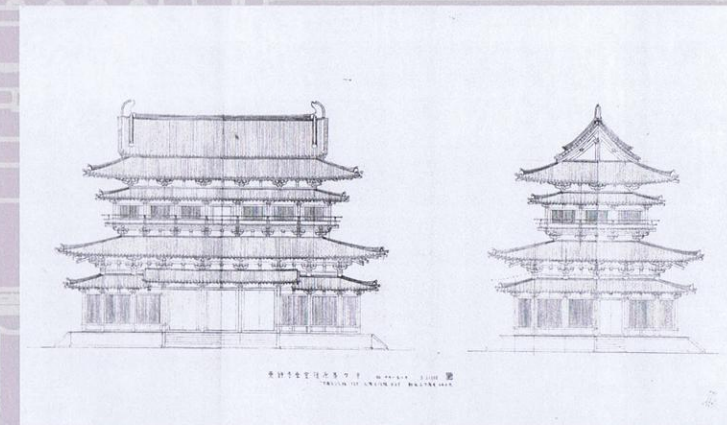
川崎大師平間寺の旧本堂は天保5年(1835)の建立とされる建物でしたが、昭和20年4月15日の戦災で焼失しました。再建にあたって鉄筋コンクリート造が採用され、建物の規模もかなり拡大されて実施されました。



「川崎大師八角五重塔 正面姿図 1/20」

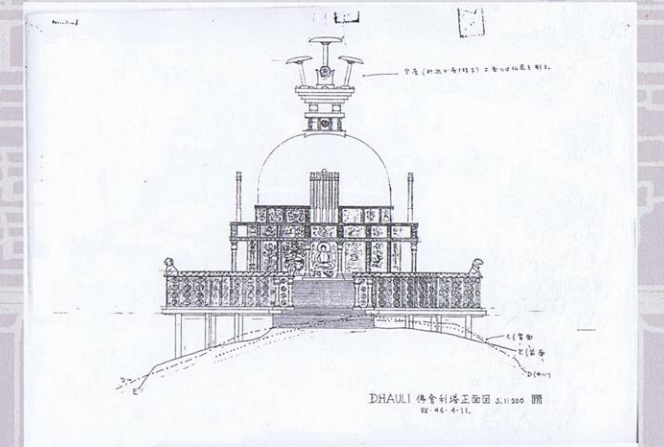
昭和55月春

大岡は飛鳥・奈良時代の建築を高く評価していました。川崎大師八角五重塔の設計では、法隆寺五重塔や薬師寺東塔が参照されました。



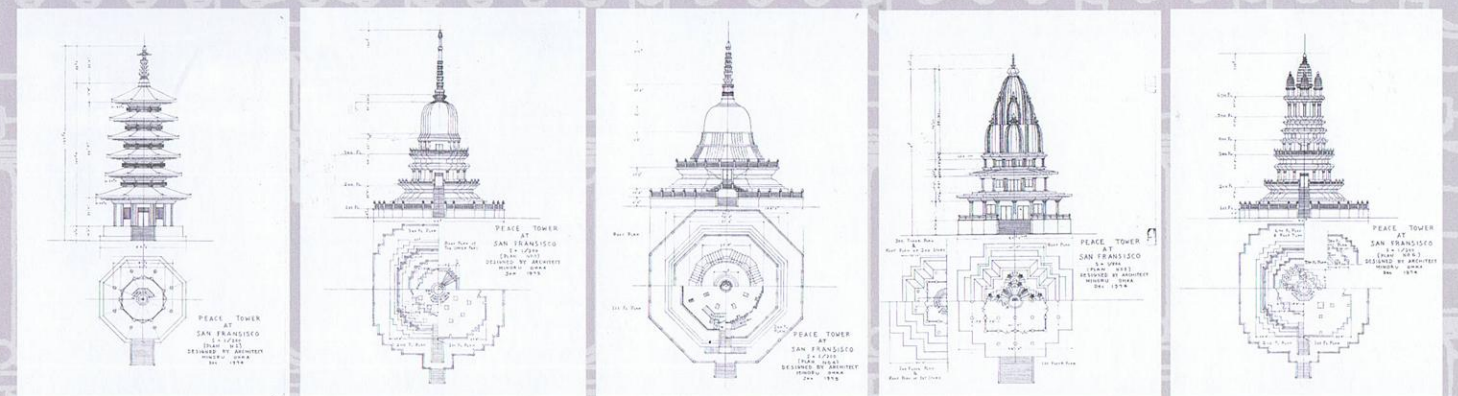
「薬師寺金堂復元第7案 1/100」 昭和44年8月4日

昭和に再建された薬師寺金堂は、大岡が基本設計をおこない、全体的な設計方針は復興委員会建築小委員会で策定されました。昭和45年10月頃までに12案以上の設計図が作成されています。構造は鉄筋コンクリート造と木造による混構造で、これは大岡の意向に沿うものでした。また、大岡が提案した鍔葺(しころぶぎ)の屋根は委員会に容認されず、通常の入母屋造りで実施されました。



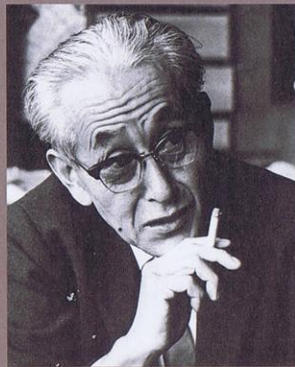
「DHAULI 佛舍利塔正面図 1/200」 昭和46年4月11日

インドオリッサ州に建てられた仏舎利塔。大岡は非常に多くの仏舎利塔を設計しており、それらは日本国内だけでなく、インドやイギリスなど海外にも建てられました。大岡は南アジアにおける仏舎利塔の歴史の変遷を調査し、自らの設計における指針を確立していきました。



「PEACE OF TOWER AT SAN FRANCISCO PLAN No.1 1/200」「同No.3」「同No.4」「同No.5」「同No.6」 昭和49月11月～昭和50年1月

アメリカ建国200周年を祝した記念塔の計画案。実際にサンフランシスコの市長や市議会からの承認を得て、敷地や施工業者も決まっていたが、実現には至りませんでした。大岡はイスラム風、日本の層塔風、インドのヒンドゥー寺院風など8つの試案を作成しています。



略 歴

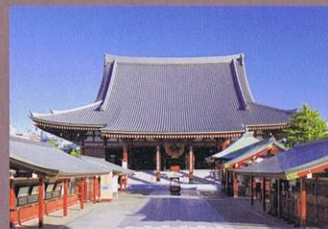
- 明治 33(1900) 年 東京深川に出生
- 大正 15(1926) 年 東京帝国大学工学部建築学科卒業
- 昭和 2 (1927) 年 文部省嘱託 (古社寺保存計画調査事務担当)
日本大学高等学校建築学科講師 (昭和 14 年 6 月まで)
- 昭和 14(1939) 年 文部省嘱託・法隆寺修理係
- 昭和 17(1942) 年 工学博士 (学位論文「興福寺伽藍配置の本邦伽藍制度史上における地位を論ず」)
- 昭和 21(1946) 年 法隆寺国宝保存工事事務所長 (昭和 24 年 3 月まで)
- 昭和 22(1947) 年 国立博物館保存修理課長
- 昭和 24(1949) 年 法隆寺金堂火災事件のため休職 (昭和 27 年 5 月まで)
- 昭和 27(1952) 年 横浜国立大学工学部教授 (昭和 41 年 3 月定年退官まで)
- 昭和 28(1953) 年 神奈川県文化財保護審議会委員 (昭和 59 年 3 月まで)
- 昭和 29(1954) 年 文化財保護審議会第二専門調査会委員 (昭和 57 年 7 月まで)
- 昭和 41(1966) 年 日本大学工学部建築学科教授 (昭和 57 年 3 月定年退官まで)
- 昭和 45(1970) 年 勲三等旭日中綬章受章
- 昭和 46(1971) 年 文化財建造物保存技術協会理事・評議員 (昭和 62 年 12 月まで)
- 昭和 62(1987) 年 逝去 (享年 87 歳)

著書

- 『南都七大寺の研究』(中央公論美術出版、昭和 41 年)
- 『日本の建築』(中央公論美術出版、昭和 42 年)
- 『日本建築の意匠と技法』(中央公論美術出版、昭和 46 年) 他

建築作品

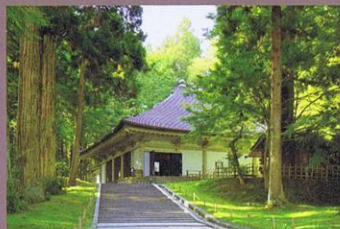
- 浅草寺本堂 (昭和 33 年) / 川崎大師平間寺本堂 (昭和 39 年) /
中尊寺金色堂新覆堂 (昭和 40 年) / 高島城天守 (昭和 45 年) /
増上寺大殿 (昭和 49 年) / 薬師寺金堂 (昭和 51 年) 他



浅草寺本堂



川崎大師平間寺本堂



中尊寺金色堂新覆堂



増上寺大殿

写真撮影：中塚雅晴

民家園講座 「建築史家・大岡實の建築
～鉄筋コンクリート造による伝統表現の試み～」

日時：7月6日(土)・13日(土) 13時30分～15時30分
 場所：生田緑地ビジターセンター2階(定員60名※事前申込制)
 料金：1500円
 講師：青柳憲昌(立命館大学) 安田徹也(安田工務店) 他